

内閣府地域密着型インターンシップ研修 素材広場最終報告書 会津レポート A³

7期研修生：ニックネーム：tuitru

2011年6月14日

福島県の会津のレポートを出すならば Aizu · Android · Atom のこの 3 つの A である。特に根拠があるわけでもなく、一ヶ月の短期間で自分なりに消化したと思えるものがこれであった。もちろん自分が会津に来て見聞きして調べたものというだけであり他所の観光物産なるものを否定するするものではない。なのでこれが王道であると言うつもりもない。ただ、とても印象に残ったのは、この A³ であったというだけである。

1 東山温泉観光協会

東山温泉にある東山温泉観光協会で、お話を聞かせていただいた。会津は福島ということを言わないようにしているそうだ。先の福島原発事故による風評被害を避けるため言わないようしている。つまり福島県会津でなく会津(Aizu)である。そして会津は android、会津産 IT 技術が盛んで会津のご当地アプリなどもリリースされている。最後の Atom は日本で最初のアニメーション手塚治虫の鉄腕アトム、原子力発電のアトムである。

この A³ の話を周囲の人に伝えると
「手塚治虫で地域の観光復興ですか！」
などと言われる、そんなつもりは毛頭ない。確かに会津は日本のアニメーションに多大な貢献をしているけれど、地元の人も、そんなこと誰も知らないし、手塚治虫とゆかりのある場所であることすら知られていないのである。しかし日本最初の漫画家アシス



図 1 手塚氏の名所を歩くスタンプラリー

タントであり手塚治虫のフルタイムの専属アシスタント第一号で、名作ヤッターマン、ハクション大魔王を制作した笹川ひろし氏を出生地は、この会津であることは事実であり、手塚治虫の公式ホームページでも手塚氏が会津お気に入りであることは明記されているのであった。

2 A³ とは

このレポート A³ は観光復興の観点から言えばマンガで復興ではなく、研修を受けた一人として、全て歩いて探した。遠くの会津ではなく近くの足元を見た会津を書かせていただく。この文書を執筆はじめた本日 6 月 6 日 6 時、悪の数字と言われる 666 に奇しくも大熊町の避難者の一時帰宅の朗報がラジオ放送で流れていた。



図2 新潟にて福島物産

3 新潟での物産

会津の近隣の方々からは「新潟のほうが美味しいものあるから誰も買わなよ」などと言われていたけれども、新潟、古町の方々は、かなり協力的だった。「福島は隣だからね。本当に仲良くしなきゃ」キュウリを買って頂いたお客様が言っていた。

4 会津の現状

近所の、八百屋に寮の買出しに行った。
「どこから来たんだい？」
「東京から福島の復興に来ました」などと述べる。
店主の娘さんが3月に僕の近所の東京の北千住に嫁いだそうだ。そして状況が一変した。
「福島県民は電車に乗るんじゃない」と東京で言われているそうだ。
今まで、優しく接してくれた人々が変貌したのだった。一瞬にして[はだしのゲン]のような状況になっている。これで「東北の人はガマン強いから」などと言わいたら「ふざけるんじゃないよ」という話だろう。
そういえば会津に来る前にラジオ放送で[福島県民は立ち入り禁止]と書かれた飲食店に対して「福島県民は放射能じゃねえ！」とリストナーが叫ぶという放送を聞いた。そして、それを聞いて福島に来たのだった。

八百屋の主人は1時間ぐらい話してくれた。近くに

あるカレー専門のインドレストランは、原発事故があった翌日にはインドに帰ったそうだ。彼らインド人のIT技術を垣間見た瞬間でかなり驚いたそうだ。「インド人すごいよ。原発のニュースあった次の日もうインドに帰ったよ」

「なんで今、営業しているんですか？」

「大使館の人が講演に来ただよ会津は安全だって。それですぐに帰って来た。本当にスゴイよインド人の情報技術は」

かなり驚きを隠せない様子であった。

5 東山温泉旅館・原瀧

近所のパン屋の手前にある雑貨屋さんのお店のウィンドウには、コロ助の縫いぐるみが飾られている。漫画・アニメの会津としては、これでかなりのパーツが揃っている。タイムボカンのヤッターマン、スリル博士のヒゲ親父、キテレツ大百科のコロ助。これだけのパーツがあればアニメ・漫画で観光は既に可能であろう。しかし今回の目的はそこにはないのである。

ただ単にコロ助が好きだから飾っていたという雑貨屋さんの店主さんも東山温泉と手塚治虫がゆかりがあることは知らないそうだ。ただお秀茶屋に手塚治虫のサインが置いてあることを知っていた「地元なのに知らないスイマセン」と述べる。

会津とマンガに関しては東山温泉旅館・原瀧の従業員の話が強く印象に残る。

「ある一部の人しか知らないんだよ。よくお客様に聞かれるんだけど全然、分からなくて(笑)」

ここに来る以前、会津がソースカツ丼で有名であることを知らなかった。地元の人がプッシュしているのであれば、会津にいる間に一度は食べておこうとお思っていた。そして東山温泉で、そのときが来た。旅館・原瀧でソースカツ丼が出たのであった。さっそく喜び勇んで食べてみた。

「いやあ会津に来てはじめて、ソースカツ丼を食べましたよ」

「店に行けば、もっと美味しいモノ食べれるよ」



図3 手塚治虫が歩いた箇所が分かる



図4 東山温泉旅館・原瀧

気を利かして言ったつもりであったけれども、彼らからすれば、会津のソースカツ丼はこんなものではないとでも言いたいのであろう。外部から来た僕からすれば会津の店で出るソースカツ丼もホテルで出るソースカツ丼も共に楽しめる素材であることは確かなだけれども、やはり旅館側からすれば店で出るソースカツ丼のほうが美味しいと思っているのだろう。

灯台下暗らしである。遠くのモノは見えても、近くの良いものには見えない。それが手塚と会津の関わりあいなのかもしれない。一部のファンには知られているけれども、地元に暮らしている人には何のことかサッパリ分からぬというわけだ。

6 東山温泉観光協会

観光案内所の手伝いをしたときに面白いファイルに目が止まった。城にタイヤが付いていて走行可能なロボットである。案内所の人に聞くと [お城ボくん] というらしい。この観光案内所は東山温泉観光協会に併設されている。

お城ボくんは先にも述べたようにヤッターマンで一世風靡した笹川ひろし氏の制作のキャラクターである。市がキャラクターの制作を笹川氏に依頼してデザインが決定したそうだ。「鶴ヶ城」をモチーフにしている。

手塚治虫と会津の歴史は、東山温泉旅館・原瀧の姉妹館であった今はなき「すみれ荘」という宿に宿泊したことからはじまる。漫画家になる夢を諦められず何度も手塚氏に漫画原稿を送ったことから手塚氏

の「東京に出てみないか?」という強い勧めにより、日本初の漫画家アシスタントが誕生したのだった。『笹川さんが会津出身だからでしょうね。そのうち手塚のアシスタントは会津出身者ばかりなった、それで会津の話ばかりするから手塚先生も「行ってみようか」という話になったんでしょう』NPO 法人会津マンガ文化研究会の方はそう語る。

昭和30年代、笹川先生とのつながりで、手塚先生ご自身も何度か会津に足を運んだようだ。七日町の冒險堂さんには、手塚治虫やら藤子不二雄といった漫画家集団のサイン本や写真などの痕跡が残されている。手塚治虫が実在の場所を舞台にすることは、ほとんど無い。それだけでも東山温泉は貴重な文化資産を有していることになる。それだけでなく「スリル博士」後の手塚作品では定番のキャラクターとして存在するヒゲ親父は、この東山温泉を舞台にしている。ヒゲ親父が誕生しなければ、キャラクターを起用したトヨタのハイブリッドカー・プリウスも存在していなかつたかもしれないわけで東山温泉・原瀧は、かなり由緒ある旅館であることは間違いない。

会津を一言で語るればアニメなのだろう。なぜアニメなのかと言うと、昔のモノを引っ張り出してきて公社などのように「いにしえの町」だとか「歴史のふるさと」だとかやって「これが会津です」などとやっても誰も喜ばないし。それより認知度の高いアトムとかウランちゃんとか出してくれたほうが絶対、地域の人に喜ばれ県外の人にも喜ばれるに違いないはずである。

『有るものを作るように描いてはいけない』とは、も

ちろん岡本太郎の言葉である。彼は、芸術とは無償で全ての人に提供できなくてはならない。ということを主眼に常にパブリックアートを町中に提供してきた。そして、手塚治虫に関しては会津を舞台に一晩で18枚。マンガを描いた。皮肉なことに、このときのスキルが月刊であった漫画を週刊連載漫画に移行したのだったのである。

目的を履き違えてはいけない。手塚治虫が来ようが、赤塚不二雄が来ようが藤子不二夫が来ようが地域全体で、観光復興しなくては意味がない。高田馬場では、今世紀に鉄腕アトムが生まれるという設定であった。今ではJR高田馬場駅の発射ベルはアニメ鉄腕アトムのオープニング曲である。そして駅の高架下には鉄腕アトムの登場キャラクターが壁画として描かれている。ここは地域全体で鉄腕アトムなのである。こうでなければ観光としては成り立たないであろう。ある特定の人間だけをターゲットにしてはいけないので。なのでアニメキャラで街を売り出そう！などというつもりは毛頭ない。この会津に残るマンガは絵画ではない。マンガというスピリット（思想）が脈々と受け継がれた地域、伝統工芸技術の町だからこそ、マンガの神様、手塚治虫のおメガネにかなった地域なのだろう。

7 地域研修

会津はITの町である。特に駅前にはIT企業が欄列している。面白いのは常時、インターネットを利用して店先で被災情報を発信している姿もあった。特に気に入ったのは会津まちなかITセンターである。Androidタブレット端末が常設してあり一般開放されている。市民の方々は電子書籍を読んだりインターネットを利用したりしている。もちろん無償である。

8 終章

以前、仕事で中国人の方々と話したとき「三国志」や「中国4千年の歴史」「架橋」などというのは中国人は、よく知らないそうだ。確かに、そのような書籍



図5 android端末が常設されている



図6 手塚治虫の看板が常時設置されている

はなど出てはいるけれども、日本人が書いたマンガを中国語に翻訳した本で中国を勉強しているのだそうである。

意外と気づいていないけれども、かなり日本という国はコンテンツ産業が活発である。マンガにしてもソフトにしても。足元を見ると、そういうすごいことが山ほどあるものである。

道路わきにコスモスなどの花が咲いていたのだけれども、誰も驚いていないようであった。これなんかもマンガの家族愛をテーマにしたエンジェルハートに出てくる話とよく似ている。などと思った。そう見ていくとシティーハンターによく出てくるミニクーパーとかホルクスワーゲンなんかも、ここらへん人はよく好んで乗ってるようだ。

この研修は帰ってからが本当の最終なのではないか？と考えた。各研修生が地元に帰って他の団体と連携して自分たちの地域復興をすることで終わりを迎える。などと考える。以上。